

# いわみじ ことづて 石見路の言伝

去年の10月から調査を開始しました「国ヶ峠遺跡」の調査成果をご報告させていただきます。  
ご協力をいただきました地元の皆様を始め、多くの方々に、厚くお礼申し上げます。



## 発掘の成果



石切り場に残る  
工具の痕跡



大きな石の並び

### 1、地蔵堂

この遺跡は西平原と木部をつなぐ峠道の、旧村境にあたる場所です。調査前にはお地蔵様をまつる祠があり、お地蔵様が安置されていました。(お地蔵様本体は、現在は大浜地区へ移されています)。

この祠が、古墳時代の横穴式石室の痕跡とみられたことから調査を始めましたが、古墳時代の遺物は出土しませんでした。床面の形の特徴

(裏面へ続く)



お地蔵さまが安置された石

なども古墳とは異なり、残された遺物も近世以降のものだったので、近世の地蔵堂であることがわかりました。残された遺物には近世中ごろから現代までのものが含まれており、峠を行き来する人たちを長い間見守り続けてきたことがわかります。お地蔵様を据えるための台座は祠の奥にありましたが、実際にお地蔵様が置かれていたのは祠の手前側で、台座の上に置かれていませんでした。長い間たつうちに、台座の存在が忘れ去られたのかもしれない。

## 2、石積み

現在のお地蔵様の祠とは反対側の山の斜面で見つかりました。直径5mの範囲に、大きさも形も様々な石が積み上げられていました。石の間からは中世初め頃（1100年頃）の土器が見つかったことから、中世初めころの石積みと考えられます。

峠に位置していることから、峠を守る「才の神」などの可能性があります。



石積み

## 3、道跡

円形の穴が列になって並んでいるのは、昔の道の跡です。谷底から少し高い位置を通っていますが、峠の近くでは徐々に谷筋を離れ、山の斜面を斜めに登っていきます。

灰色の土がしっかり充填され、周囲の地山よりも硬くしまっていました。路面にあたる部分は残っておらず、道路の基礎となる部分だと考えられます。この道の上には1m以上土砂が積もって、完全に埋もれてしまった状態でした。道の跡を覆う地層の中から中世（1300～1400年頃）の鉢が見つかったことから、時期は中世またはそれ以前だと考えられます。



中世の道の跡

## 報告会のお知らせ

下記のとおり国ヶ峠遺跡の調査成果報告会を開催いたします。皆様どうぞお越しくださいますよう、ご案内申し上げます。

1. 日時 2月8日（土）午前10時～
2. 集合場所 鎌手公民館大会議室
3. 説明者 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター職員